



大野平野を疾走する北海道新幹線

第219号



◇巻頭言◇ 退任ご挨拶

夕陽とこしえに

夕陽会前会長 橋田恭一

(昭和39年卒)

(平成二十年六月の夕陽会総会において会長に就任。爾来四期八年間にわたり、皆さまのご支援をいただいて会長職を続けてまいりましたが、この度の総会で藤川隆新会長に無事バトンタッチすることができ、心から感謝しております。

この八年間を振り返ってみると、夕陽会員の皆さまの母校に寄せる思いを強く深く感じた八年間でした。

副会長として最重要課題として取り組んだのが教職課程の復活でした。平成二十四年、大学本部から、函館校において教員免許状(特に小学校免許状)が取得できなくなるらしいこと、それに伴い附属小学校の存続の問題が浮上してきたことを伝えられました。それは大学自体が、文部科学省の求めに応じて大学改革を進める過程で起きてきたことであります。つまり、教員養成を主目的とする大学から多様な人材を育成する大学にするために、札幌校、旭川校、釧路校は従来通り教員養成を、函館校は国際地域創造学部(仮称)、岩見沢校は芸術・スポーツ学部(仮称)とする大学の三学部構想がでてきたことに端を発します。

当初、函館校は仮称国際地域創造学部と教育学部の二学部構想でありましたが、学長は文科省との折衝によって教育学部を断念し、国際地域創造学部のみにて文科省に申請することを決定しました。これは同窓会としては認めがたいこと。ここに大学本部と文科省の厚い壁を乗り越える運動を展開することになりました。運動の経緯については、夕陽会報で幾度となくお伝えしていますが、改めて振り返ってみると、夕陽会員は勿論のこと、私たちの運動に賛意を示す地域住民をはじめとする多くの方々の思いが、道南の各首長さんや地方議員、国会議員を総動員しての運動に拡大発展して、文科省の

重い扉を開けることができたものと思っております。この運動に死力を尽くしてくださった夕陽会員、役員各位の皆さまに心からの敬意と感謝をあらためて申し上げます。次第であります。

平成二十六年度から函館校は地域協働専攻と地域教育専攻からなる国際地域学科として生まれ変わりました。「国際協働専攻」は、地域との協働をとおして地域を活性化・再生できる人材を育成します。また、「地域教育専攻」は、小学校の教員免許状の取得が卒業要件となります。なお、国際協働専攻においても、必要単位を履修すると中学校の英語・国語・社会・理科・数学の免許が取得できることになりました。

平成三十年三月には第一回生が卒業の予定であります。臨時採用教員の確保に苦勞している道南ですが、何人の教員や地域を担う人材が誕生するのか、期待が膨らみます。

函館校の両専攻が「地域」の名を冠していることを受け、夕陽会も、これまでの教職員主体の組織からさらに発展し、公務員や民間企業で活躍する同窓生と力を合わせ、この函館や道南圏、北海道の地域振興を担うことが更なる役割として求められております。市役所や各地の自治体、機関に勤める夕陽会員や民間企業で活躍する夕陽会員への声掛けを粘り強く続け、会員が相互に繋がり、力を合わせて教育や地域の未来づくりに向けた取組を続けて欲しいと思います。

最後になりますが、ともに知恵と行動力で支えてくださった須藤・土谷・奥崎幹事長経験者、永井幹事長をはじめとする歴代の本部役員と事務局員の皆様方に心から感謝を申し上げ退任のご挨拶いたします。

就任ご挨拶



歴史と伝統の価値を共有して

会長 藤川 藤藤 隆
(昭和48年卒)

六月二十五日に開催されました総会におきまして、橋田恭一前会長の後任として大役を仰せつかりました。もとより力量不足ではございますが、経験豊かな役員の皆様や会務に精通しておられる事務局の方々のお力を借りながら、会長としての職責を果たすことができよう、誠に誠意努めてまいりたいと思っております。

また、本部の庶務部長及び幹事長を務めておりました四年間、各支部の皆様には温かなご支援、ご協力を賜りました。特に、平成十三年度に札幌市で開催されました総会・懇親会の折には、札幌市支部の皆様はじめ、多くの方々にお力添えをいただきました。このようにお世話になりました皆様へ感謝し、そのご恩に少しでも報いることが私の責務だと考えております。各支部の皆様には、一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

橋田前会長におかれましては、四期八年にわたり卓越した指導力と行動力を発揮され、本会の充実・発展のために多大なるご尽力をいただきました。とりわけ、母校に小学校の教員養成機能を存続させるため、まさに粉骨碎身の努力をされました。現在、母校の『地域教育専攻』の学生が、小学校だけでなく、特別支援学校や幼稚園の教員免許取得を目指して学習に励んでいる姿に橋田前会長のご功績を重ね合わせ、改めて敬意を表するとともに感謝を申し上げます。

文部科学省が、国・公・私立の枠組みを超えての統合も視野に入れた大学再編を検討しているとの報道もあり、母校の将来像を明確に思い描くことは難しいと考えます。しかし、橋田前会長が残された小学校教員養成機能の存続という偉業を、夕陽会としても確かに引き継いでま

いりたいと思っております。さて、平成三十年には「夕陽会創立百周年」を迎えます。総会でご承認いただきました百周年記念行事・事業実行委員会規約に基づき、式典部、祝賀会部、記念事業部、記念誌発行部、総務部からなる実行委員会を組織し、八月から具体的な取組みを進める予定になっております。百周年の記念行事・事業は、本会が正七十年に北海道函館師範学校同窓会として創立されて以来、教職に就かれた多くの先輩が中心となって築き上げてくださった歴史と伝統を振り返り、その価値を共有して同窓の絆を一層深める貴重な機会でもあります。また、教職に就かれた会員と、民間企業や公務員等の会員を左右の両輪としてしっかりと据え、本会運営のさらなる安定と充実を図る契機にもしなければならぬと考えております。

昨年度の母校卒業生の進路は、民間企業が百六十九名(64%)、公務員が四十九名(19%)、教員が四十四名(17%)となっており、今後、教職に就く後輩が増えることを期待しておりますが、民間企業で、あるいは公務員として活躍する後輩が多くを占める状況に変わりはなく、重点推進事項であります「教職外会員の入会促進」と「在学生会に対する同窓会意識の啓発」に全力で取り組み、百周年に向けて一層の組織強化を図ってまいりたいと考えております。

会員の皆様には、百周年記念事業及び本会の今後の在り方につきまして、それぞれのお立場からご意見やご要望をお聞かせいただきますようお願い申し上げます。就任のご挨拶といたします。



夕陽無限好

副会長 島 津 彰
(昭和48年卒)

この度、副会長の大役を仰せつかりました。藤川隆会長の意を体し、また会員皆様方の意向に沿うように微力ですが力を尽くして参る所存です。

教職に就いてからは、様々な場面で諸先輩の指導を頂き、そのお陰で今日の私があるとの想いを強く抱いております。特に、平成十年の「創立八十周年」では総務部の部長として、また「特別支援学校支部創立十周年」では、図らずも支部長としてその任務を遂行できましたことも、ご指導の賜と感謝しております。

本会創立百周年の事業を控えています。が、単なるお祝い事で無く、現代社会の抱えている教育の諸課題や経済も含めた



就任にあたって

副会長 戸 澤 和 彦
(昭和54年卒 函館市立柏野小学校長)

この度、函館市小学校校長会長就任に伴い、夕陽会副会長という大役を仰せつかりました。役員の皆様のご指導を仰ぎながら、夕陽会の充実・発展のために精一杯努めて参りますので、どうぞよろしくお願いたします。

私は、昭和五十四年三月に母校を卒業し、四月より福島町立吉岡小学校に採用になりました。当時の福島町は青函トンネル建設が進行し、先進導坑が完成するなど開通に向かって大いに活気溢れる時期でありました。生まれてから函館を離れたことがなく、教師としての覚悟もまだ十分ではなかった私は、日々の学級経営や校務に戸惑う毎日でした。また、地

地方再生のあるべき姿、また高齢化社会の課題など、会員がそれぞれ場で活躍している事に関連した、課題解決の学びの場となることが肝要だと考えます。

とりわけ教職以外の会員の皆様方が全国に急増している中、今後の同窓会は今以上に教育だけの視点では無く、地域社会に根を下ろしつつも、グローバルな視点を持ち、地域の課題(地方自治、地域経済、地方文化の各有り様)に腰を据えて取り組む姿が問われていると考えます。「夕陽無限好」は唐代の李商隱の漢詩の一節ですが、「夕陽」は一日への感謝の心の輝きであり、同時に明日への希望の輝きであることを胸に刻みたいと思っております。

地域の風習や工事のために全国各地から集まった方々とのつきあいなどにも中々慣れない状態でした。そのような中、職場はもちろん町内にも夕陽会の先輩がたくさんいらつしやいました。が、学級経営や教科指導はもちろんのこと、地域の方々とのつきあい方など多くのことを教えていただき、本当に心強く感じたことを思い出します。

函館に勤務してからも、夕陽会の先輩諸氏から様々なことをご指導いただきながら、同窓の絆を強く感じる事が多かったと思います。この度の就任を機に、少しでも恩返しができるよう頑張りたいと思っております。



副会長就任にあたって

副会長 岡野伸二
(昭和54年卒 函館市立深堀中学校長)

この度、函館市中学校長会長就任に伴い、夕陽会副会長という大役を仰せつかりました。会長をはじめ、役員の皆様のご指導を賜りながら、夕陽会の充実発展のため、一隅を照らす所存です。どうぞ宜しくお願い致します。

私は、昭和五十四年三月に母校を卒業し、日高管内新冠若園小学校に採用されました。最初に戸惑ったことは、複式教育でした。指導計画作成、「ずらしわたり」の指導過程等と、日々の授業がうまくいかず不安と自己嫌悪で一杯でした。そんな暗い気持ちでの初任スタートを救ってくれたのが夕陽の先輩達でした。町内教職員の野球チームに誘っていただ



就任に当たって

監査 武田隆雄
(昭和40年卒)

この度、監査の役を仰せつかり、夕陽会本部で三度目のお務めをすることになりました。最初は研修部を担当、次に充て職の副会長に、そしてこの度です。微力ですが、夕陽会の充実・発展のために努力してまいりたいと考えております。

「ふるさとは遠きにありて思ふもの」は室生犀星の有名な詩句ですが、私は道南の地を離れた時に夕陽会の存在の大きさを痛切に感じたものでした。
(昭和四十六年、新任教員として石狩管内当別町の僻地四級の学校に赴任した際には、同窓の先輩の先生に何かと気遣っていただいたことが昨日のこのように思い出されます。

き日頃の悩みを傾聴していただいたり、複式授業のやり方、そして実際に授業をやって見せてくれた情熱溢れる夕陽の先輩の姿が今も思い出され、涙腺が熱くなります。あの時、先輩をさりげなく支援し後押ししてくれた夕陽魂のお陰で現在の自分があると感謝の心で一杯です。その後、函館での中学校勤務、道教委、教頭、市教委、校長と、山あり谷ありの歩みでしたが、それぞれの節目、勤務場所で、「夕陽」という共通点だけで、助けられ、困難を乗り越える知恵と支援をいただきました。そんなご恩ある夕陽のために微力ですが、恩送りができるよう頑張りますので宜しくお願いいたします。

また、網走、胆振、空知の各管内に勤めた際にも、同窓の方々に大変お世話になりました。お酒が入ると函館訛りが出るらしく、「先生、はごだで？」と旧知の仲であつたかのように声をかけていただきました。さらに同窓であることがわかると絶大な支援も頂戴しました。
道南の学校に勤めていると、周りには同窓の方が多くいますが、遠く離れるほどその数は少なくなります。しかし、反比例するかのようには、絆は強く、深くなると感じたものでした。
今や全国へ会員が広がっている夕陽会です。各地で会員が絆を深め、一層活躍されることを祈念して止みません。

会務報告



幹事長 永井 貴之
(昭和63年卒)

《一般会務・函館校関連の動き》

3/15 函館校卒業式に橋田会長、川島顧問、繪面副会長が出席する。

4/2 北海道教育大学合同入学式に橋田会長が出席する。(札幌)

4/9 函館市支部総会に橋田会長、永井幹事長が出席する。(函館)

4/15 函館校後藤キャンパス長と橋田会長が懇談する。(函館)

4/26 道教委柴田教育長、杉本教育部長、梶浦学校教育監と橋田会長が懇談する。(札幌)

4/26 指導主事等会総会が開催され橋田会長、古旗参与、永井幹事長が出席する。(札幌)

4/27 八雲町教委田中教育長と橋田会長が懇談する。(八雲)

5/12 函館市支部幹事会・新会員歓迎会に橋田会長、永井幹事長、白川・齊藤副幹事長が出席する。

3/ 会計監査を行う。(函館)

5/20 第2回役員会が開催される。(函館)

5/26 第3回本部役員会、顧問・参与会議が開催される。(函館)

6/10 平成28年度全国支部長会議・本部総会・懇親会を開催する。(函館)

6/25

《支部総会・懇親会・同期会・個展等》
4/23 空知支部総会に青柳副会長が出席する。(岩見沢)

4/23 釧路支部総会が開催され、橋田会長が出席する。(釧路)

4/24 札幌市支部総会に橋田会長、青柳副会長が出席する。(札幌)

4/25 八雲支部に白川副幹事長が出席する。(八雲)

5/9 石狩支部総会が開催され、白川副幹事長が出席する。(札幌)

5/9 小樽市支部総会が開催され、永井幹事長が出席する。(小樽)

5/14 渡島支部総会に橋田会長が出席する。(函館)

5/14 檜山支部総会が開催され、天野副会長が出席する。(江差)

5/14 帯広十勝支部総会が開催され、齊藤副幹事長が出席する。(帯広)

5/14 上川支部総会が開催され、白川副幹事長が出席する。(旭川)

5/20 知内支部総会に伊藤副会長が出席する。(知内)

5/21 後志支部総会が開催され、橋田会長が出席する。(倶知安)

6/8 北斗支部総会に天野副会長が出席する。(北斗)

6/15 木古内支部総会に白川副幹事長が出席する。(木古内)

6/17 鹿部支部総会に天野副会長が出席する。(鹿部)

6/24 松前支部総会に永井幹事長が出席する。(松前)

顧問・参与会

(平成二十八年六月十日(金) 函館国際ホテルに於いて、本部役員会に引き続き顧問・参与会が開催された。開会に先立ち、全員で「夕陽讃歌」を声高らかに斉唱、その後橋田会長が「四期八年を振り返り夕陽会の活動が難しくなってきたと感じている。何よりも会員が減少し、支部同士が統合したところも少なくない。今後は教職外へのアプローチが会員増へとつながる新たな道となる。さらに知恵を出し合い、工夫を凝らして戦略を練ることが求められている。今日は忌憚のないご意見をいただきたい」と述べた。議長に繪面副会長が選出された後、議事が進行、報告・協議事項では、総会議案について審議され、永井幹事長ならびに林財政部長、笹原監査より会務・決算・監査の各報告と、平成二十八年度の運営方針・重点推進事項および予算案についての提案があり承認された。顧問・参与からは「現職を終えた我々顧問・参与もボランティアとして積極的に夕陽会事務局・各部の活動に参加するという、新たな関わり方が必要ではないか。事務局も前年踏襲にとらわれず、新しい発想で臆せず活動してほしい」という建設的で、温かな励ましのお言葉をいただいた。

総会・大懇親会

藤川 隆氏を
会長に選任

平成28年度 夕陽会総会

平成二十八年度の夕陽会総会は、六月二十五日(土) 函館国際ホテルで開催された。

審議に先立って挨拶に立った橋田会長は「我が夕陽会もあと二年で創立百周年を迎える。夕陽会をとりまく環境もこれまでとは変わり新たな課題が山積している。大学再編については地域教育専攻課程に教員養成機能が存続され、今年三年目を迎える。一方で教員数の減少により会員数も減り各支部とも会の運営に大変ご苦労をかけている。今後も教職外会員が増え続ける現状では、新たにこれらの就職者をどう取り込み組織化するかが大きな課題である。母校支援では既卒者を含めた教職を目指す学生への大学キャリアアセンターを通しての指導が成果をあげている。OBもボランティアとして学生の指導にあたっていることにも心から敬意を表したい。今日は今後について忌憚のないご意見をいただきたい」と述べた。

次に議長として木村孝氏(渡島支部)、関良一氏(高校支部)を選出、役員選考委員・議事録署名人を確認した後、議事および別室での役員選挙に入った。

報告事項では、永井幹事長より平成二十七年年度会務・事業報告が述べられ、続いて林財政部長からは、通常会費と基本金会計の会計報告が行われた。また門脇監査からはすべて適正に処理されている旨の監査報告が

あった。

母校関係では、橋田会長より堅調な卒業生の採用率や就職率について函館校の実績が報告された。

議事事項では、はじめに永井幹事長より平成二十八年度の運営方針並びに推進事項・事業計画が提案され、八月に百年記念事業にむけた準備委員会が発足すること、引き続き民間企業や地方公共団体の会員の中核となる人材の育成に重点をおくことなどが提案された。なお本年度の重点推進項目は次のとおりである。

①組織強化と運営の効率化

* キャンパス再編・新学科に対応した教職外会員の入会促進

②人材の育成

* 民間企業・地方公共団体に勤める若手会員の的中核となる人材の育成

③財政の効率的な運用と業務の見直し・効率化

* 夕陽会百周年に向けた実行委員会の発足と財政基盤の整備。

④研究・研修、文化事業の奨励

* 各支部の研修活動等の支援。

⑤母校への支援と地域への貢献

* 母校の教授対策関係事業、就職対策関係事業への支援。

* 在校生(会員予定者)に対する同窓会意識の啓発と勧誘活動の実施

⑥夕陽記念館(北方教育資料館)の整備・活用

* 百周年記念事業に向けた諸資料の計画的収集・整理・アーカイブ化

また、林財政部長より平成二十八年度の予算案が提案され、会員減の現状に考慮した予算案が承認された。

本年度は、会長等の役員改選期に当たり、二期八年、我が夕陽会のために多大な貢献をされた橋田会長がご勇退され、新会長に藤川 隆氏が選任された。新旧会長挨拶では、川島顧問が会員を代表し

て橋田会長の大きな功績を讃えその労を労った。また橋田会長の謝辞に続き藤川新会長が決意と抱負を述べた。新役員は次のとおりである。(◎は新任)

- ◎会長 藤川 隆(昭和四十八年卒)
- ◎副会長 繪面 和子(昭和三十九年卒)
- ◎副会長 絹野 重治(昭和四〇年卒)
- ◎副会長 天野 哲征(昭和四一年卒)
- ◎副会長 青柳 史匡(昭和四二年卒)
- ◎副会長 伊藤 皓嗣(昭和四四年卒)
- ◎副会長 島津 彰(昭和四八年卒)
- ◎副会長 岡野 伸二(昭和五四年卒)
- ◎副会長 戸澤 和彦(昭和五四年卒)
- ◎副会長 川野 真一(昭和五四年卒)
- ◎副会長 岡村 宏安(昭和五四年卒)
- ◎副会長 関 良一(昭和五五年卒)
- ◎監査 近藤 健(昭和四一年卒)
- ◎監査 門脇 正和(昭和四二年卒)
- ◎監査 武田 隆雄(昭和四六年卒)
- ◎幹事長 永井 貴之(昭和六三年卒)
- ◎副幹事長 齋藤 緑(昭和六〇年卒)
- ◎副幹事長 平田新次郎(昭和六二年卒)
- ◎副幹事長 白川 卓(平成 五年卒)
- ◎副幹事長 (昭和五九年卒 高丘小教頭 盛 健記)



藤川新会長あいさつ



新会員紹介

平成28年度 夕陽会総会

平成28年6月25日(土)

百周年を前に 夕陽新たな旅立ち 大懇親会



説明に立つ永井幹事長

函館国際ホテル天平の間に溢れんばかりの会員が集う中、いよいよ今年の「大懇親会」も開会の時を迎えました。開会に先立ち、繪面和子副会長の先導によりご来賓の方々が入場し、会場には大きな拍手が鳴り響きました。

齊藤藤縁副幹事長の進行のもと川野真一副会長による開会宣言で、本年度も大懇親会の宴が始まりました。まずは恒例の「夕陽讃歌」の斉唱です。本年度も函館市立五稜郭中学校の栗田芳樹先生（平成十年卒）が指揮を担当。参加者全員の母校に対する思いを込めた「夕陽讃歌」が会場いっばいに声高らかに響きわたりました。

会長挨拶では、本年度の総会で橋田恭一氏に代わり会長に就任した藤川 隆新会長が、二期八年に渡り母校の教育支援に偉大な足跡を残された橋田会長の功績を讃えその姿を「機動力と安心感に溢れ

私たちをリードされた」と表現し謝辞を述べられました。続いて「今後は会長職としての重さを十分自覚し、橋田会長を引き継ぎつつ、少し遠い方向を見つめながら夕陽会のあるべき姿を探っていききたい」と抱負を語りました。また百周年記念事業にふれ「歴史と伝統の価値を確かめ合い共有しながら、故きを温ねて新しきを創る『温故改新』の機会としたい。皆さんの新しい知恵と発想で百周年を盛り上げよう」と呼び掛けました。

ご来賓挨拶では、函館市副市長中林重雄氏が、「夕陽会が函館市の教育向上に日々努力されていることに感謝を申し上げる。市としても様々な教育施策のもと、教育環境の整備に努め、支援を続けていきたい。北海道新幹線が開通し函館市の観光もさらに活性化してきている。今後函館市のまちづくりご協力をお願いしたい」と述べられました。

続いて辻俊行北海道教育庁渡島教育局長からは、「北海道教育大学と北海道教育委員会は教員の資質・能力の向上をめざし、教員の養成・採用・研修について一貫性をもって対応できるよう連携協定を結んでいる。今年は教職大学院も開設される。さらに協力支援を強めていきたい」とのお言葉がありました。

母校からは本年度よりキャンパス長に就任された後藤康宏氏が、ご挨拶に立ち「大学を取り巻く環境は厳しさを増しているが、学生にはこれまで同様温かい眼差しで支援をお願いしたい。現実をよく見つめながら今後も努力していきたい」と決意を述べられました。

続いて、恒例の新入会員の紹介です。本年度も中田和子光成中学校教頭の進行により、八名の教職等の新会員が紹介され、会場には大きな拍手と声援がわき起こりました。

次に、與田敏樹渡島管内教育委員会教育長会長の祝杯のご発声で祝宴が幕を開けました。

今年も会場内は各卒業年次ごとの席で、互いに若き日の記憶をよみがえらせ、旧交を温め合いながら、青春時代に戻ったように、語り合う姿が見られ、夕陽会大懇親会ならではの熱気に満ち溢れる雰囲気になりました。

宴もいよいよ佳境に入り、恒例のエンルを今年は千葉慎司先生（平成二十八年卒）五稜郭中）と大太鼓、桜川祥貴先生（平成二十三年卒 五稜郭中）の新コンビが熱演し、今回も大いに会場を沸かせました。

閉会が近づく中、トリを飾る寮歌の大



エンル



寮歌大合唱

合唱が始まります。諸先輩方が背に「夕陽」の揃いの法被姿で登壇すると、会場の雰囲気はさらに盛り上がり、恒例の小林周次先生（昭和三十三年卒）の音頭で、母校に対する思いを込めた歌声が会場全体を揺らすように響き渡りました。

余韻が覚めやらぬ中、乾杯の時間となり、山本真也函館市教育委員会教育長が今後の夕陽会の発展を願って乾杯の音頭を取り、宴はお開きとなりました。最後に戸澤和彦副会長が閉会を宣言、伊藤皓嗣副会長の先導でご来賓の方々が退場され、本年度の夕陽会大懇親会も大盛会のうちに終了しました。

平成二十九年度も六月十七日（土）に、函館国際ホテルにおいて、夕陽会本部総会ならびに大懇親会を開催する予定です。来年度もまた万障お繰り合わせの上多くの会員諸氏がごぞつて集い、同窓の輪をひろげようではありませんか。

（昭和60年卒 湯川小教頭 樫野人範記）

平成二十八年度 夕陽会運営方針並びに推進事項

《運営方針》

「創造し行動する夕陽会」をモットーに、会員一人一人に活力と潤いをもたらす運営の充実と活動の活性化を図り、次の各事項の深化拡充に努める。

《推進事項》

1 組織強化と運営の効率化

- (1) 会員相互の連携を重視し、各界会員の組織化と会運営の効率化を図る。
- (2) 各界の会員動態の把握と広報活動の充実。
- (3) 支部、ブロック、部会活動の活性化と本部との連携。
- (4) キャンパス再編・新学科に対応した教職外会員の入会促進。(重点事項)

2 人材の育成

- (1) 女性会員及び若手会員の運営への積極的な参画。
- (2) 夕陽会報219、220、221号の発行
- (3) 人材の発掘と会員の資質・地位の向上を図る。
- (4) 会員である道・市町村議会議員、首長部局職員、教育行政・管理職等との連携。
- (5) 関係機関・団体に所属する会員との連携。

3 財政の効率的な運用と業務の見直し・効率化

- (1) 「つなぎ」、「集う」視点から、諸事業の再構築と財政の効率的な運用に努める。
- (2) 夕陽会100周年に向けた実行委員会が発足と財政基盤の整備。(重点事項)
- (3) 諸業務、諸事業の見直しと再構築。
- (4) 指導主事及び教頭等の学校管理職候補者の発掘と育成。
- (5) 民間企業、地方公共団体に勤める若手会員の中心となる人材の育成。(重点事項)

4 研究・研修、文化事業の奨励

- (1) 会員による個人及び協働の研究等を奨励し、明日の夕陽を担う会員等の研究・研究意欲の高揚を図る。
- (2) 研究・研修助成並びに研究内容の紹介。
- (3) 各支部の研究活動等の支援。(重点事項)
- (4) 「若手枠」の活用による夕陽会の明日を担う若手の育成。
- (5) 会員による文化事業の奨励。
- (6) 母校への支援と地域への貢献
- (7) 母校の継続と発展を願い、新学科の支援を行う。
- (8) *母校の教授対策関係事業、就職対策関係事業への支援。(重点事項)
- (9) 在学生(会員予定者)に対する同窓意識の啓発と勧誘活動の実施。(重点事項)
- (10) 大学の地域連携・社会貢献への協力・支援。
- (11) 学生のスポーツ・文化・芸術活動への支援。
- (12) 夕陽記念館(北方教育資料館)の整備・活用
- (13) 改修された夕陽記念館への、各種記念資料等の収集と適切な保存、展示、活用を図る。
- (14) 会員の作品、記念資料等の収集と会報やWebページでの周知。
- (15) 夕陽記念館内外の環境整備、陳列品の整備。
- (16) 夕陽記念館の教育活用、学生・地域住民への開放などの検討。
- (17) 100周年記念事業に向けた諸資料の計画的収集・整理・アーカイブ化。(重点事項)

庶務部

齊藤 縁(附属幼稚園長)
平田新次郎(附属特支副校長)

- 1 諸会議(含懇親会)の諸準備及び進行、記録
- 2 文書の收受、発送及び保管
- 3 会員の慶弔事務
- 4 その他、庶務に関すること

財政部

花田 讓(本通小長)

- 1 通常会費の徴収、支出事務
- 2 基本金及び特別会計の徴収、支出事務
- 3 予算書、決算書の作成
- 4 前納会員に関する事務
- 5 その他、財政に関すること

組織部

白川 卓(附属中副校長)

- 1 支部組織の編成と組織強化対策
- 2 会員の動態調査(支部別、校種別会員名簿)
- 3 支部役員名簿等の作成、会員名簿の作成にかかわる資料の収集
- 4 その他、組織全般に関すること

情宣部

古川 邦彦(高丘小長)

- 1 「夕陽会報」の発行
- 2 事務局報の発行
- 3 その他、情宣に関すること

web委員長
佐々木正幸(北美原小長)

文化部

○ 夕陽会ホームページの作成とその管理

新濱美喜子(千代ヶ岱小長)

- 1 会員の文化活動に対する支援
- 2 文化事業(音楽会・美術展・書道展等)の企画、実施
- 3 その他、文化に関すること

研修部

鳴海 康司(光成中長)

- 1 会員の地位向上対策
- 2 会員の個人及び共同研究への助成
- 3 支部・ブロックにおける研修活動に対する支援
- 4 その他、研修に関すること

厚生部

工藤 勉(湯川小長)

- 1 会員の親睦及び福利、厚生事業の企画、実施
- 2 記念資料及び会員の作品収集
- 3 夕陽記念館の整備、充実
- 4 その他、厚生に関すること

夕陽会本部 事務局業務分担

平成二十八年度 夕陽会本部役員名簿

[illegible]

[8]

平成28年 7 月15日

受賞(章)おめでとうございます

*瑞宝双光章(27秋の叙勲11/3)

村上 忍^諸氏(昭24年卒
東京都葛飾区お花茶屋一の二五の七)

*瑞宝双光章(28春の叙勲4/29)

曲淵 信彦^諸氏(昭34年卒
札幌市手稲区前田六の六の二の二六)

*瑞宝双光章(高齢者叙勲3/1)

荒野 保^諸氏(昭24年卒
俱知安町北五西一の一の五六)

*瑞宝双光章(高齢者叙勲5/1)

広田 龍雄^諸氏(昭28年卒
新ひだか町静内中野町一の八の五)

*瑞宝双光章(高齢者叙勲4/1)

池田 久義^諸氏(昭23年卒
乙部町字館浦四七一の一)

*瑞宝双光章(高齢者叙勲6/1)

阪本 昭雄^諸氏(昭28年卒
札幌市西区西野五の七の三の三)

*瑞宝双光章(高齢者叙勲4/1)

新栄(野田)正己^諸氏(昭23年卒
函館市杉並町二〇の一六)

*瑞宝双光章(高齢者叙勲6/1)

新家 健明^諸氏(昭24年卒
函館市東山二の六三の八)

*瑞宝双光章(高齢者叙勲4/1)

山田 幸夫^諸氏(昭28年卒
札幌市手稲区星置三の六の二六の一〇)

*瑞宝双光章(高齢者叙勲6/1)

山本 瑞祺^諸氏(昭23年卒
池田字大通南一の四の一)

ご就任おめでとうございます

*八雲町教育委員会

教育長就任(H28・4・1)
田中 了治^諸氏(昭49年卒)

*泊村教育委員会

教育長就任(H28・4・1)
森 和稔^諸氏(昭44年卒)

智恵を絞り奮闘する各支部

全国支部長会議を開催

「智恵」を共有し新たな一歩を

平成二十八年度の全国支部長会議は函館国際ホテル春陽の間で六月二十五日(土)午後一時三十分より開催された。

議長は網野重治・青柳匡史両副会長が務め議事が進められた。

会議では、議事の冒頭で、橋田会長が「悪天候のため列車が遅れて、まだ到着できない支部長さんもうらつしやり、また函館では明日函館マラソンが開催されるためホテル等が混み合って、ご迷惑をかけますがよろしく願います。いよいよ平成三十年には夕陽会創立百年を迎えます。この会を皆様のお力ですばらしい会にしたいと考えています。今日はつながる・集うを合い言葉に様々なご意見を期待しています」と挨拶された。

後半の報告・交流では、「会員相互の親睦を深める活動内容の工夫」や「若手・教職外会員の働き掛けについて」「百周年実行委員会への要望」を視点を話し合いがもたれた。

各支部から共通の課題として

①教員数の減少により、会員数も減少、組織の縮小や統合を余儀なくされている。

②教職外会員の情報を集めるのに苦労している。勧誘も難しい状況にある。等の悩みが出された。

一方、若手の育成には、様々な工夫が凝らされて成果が見られることも報告された。

若手育成の工夫

1. 若手自身を講師にした研修会の実施。
2. フェースブックの活用。
3. 同窓の垣根を越えて、様々な団体組織を用いての若手育成。
4. 若手が集まる魅力ある研修内容の工夫。(運河クルーズやスポーツレク等)

百周年への要望

1. 百周年へ向けた各支部への資金援助をお願いしたい。
2. 百周年をきっかけに若手を取り込む手立てを考えてほしい。
3. 道外支部がもっと元氣になり、関心をもてるような工夫をお願いしたい。





先輩からのお便り 故 加賀英治教授の思い出 函館弁も懐かしく

片山 進
(昭和34年2類卒)

宅配された夕陽会報第二一八号を手にして発行に携わった各位のご苦労に感謝しつつ読んだが、渡利正義氏参与(昭和三十九年卒)の「夕陽への想い」と題した巻頭言中の「母校の名誉教授故加賀英治先生」との箇所が目が止まり、五十八年程前の漢文の講義の一場面を思い出し、暫し、懐旧の思いに耽(ふけ)った。

昭和三十三年四月、二類小学科に入学、副専は社会科(史学)を選択したが、高校生の折は、英語・数学が苦手であったものの、日本史、漢文は自信をもっていた故もあって、社会科選択に迷いもなかった。

自由選択の漢文の履修カードも無事受理され、国語専攻の皆さんに交じっての受講となったが、教科書は教育資料研究会発行の「中國詩文選」(定価百圓)で今でも手元にあり、人生の折々に繙(ひもと)き今や古色蒼然(そうぜん)ぼろ状態となっている。函館弁丸出しの加賀教授の名調子に魅せられ講義は楽しく、高校で習った漢詩も多かったが、作者の心情を深く付度(そんたく)することに大学レベルの高さを実感した。

予習・復習にも自らが入り、漢文のある日は勇んで登校と相成ったが、単位認定試験後の講義の折、加賀教授は開口一番「他教科の者に名をなさしめたことは如何なものか」と一喝、他教科の者といえは私だけであつたことは周知の事実

であり、その後、長長と続く説教に国語専攻の皆さんに申し訳なく、早く説教が終わることを願ひ最後尾の席で面を伏せていた。講義終了後、誰とも話すことなく気不味い思いで教室を後にした。

本年四月二十三日、岩見沢市で夕陽会空知支部のOB会員・現職会員懇親交流会が本部より青柳史匡副会長ご臨席のもとに開催されたが、青柳先生はご挨拶の中で夕陽会報第二一八号巻頭言に触れられ、加賀教授の名を口にされた時は、正に、晴天の霹靂(へきれき)の思いで聴いた。

懇談の折、青柳先生に前述のエピソードを話したところ、「私は保健体育専攻でしたが、同じ経験をしました」と話されましたが、説教された国語専攻の皆さんの中に泣き出した女子学生がいたことと、講義終了後、「青柳さんのおかげで...」とこぼした御仁(ごに)がいたことが私の体験と違ふ点であり、私の体験から七年の時を経て再び繰り返されたことに感慨を深くした。

加賀教授の説教がたまたま偶然か、将又(はたまた)意図的かは知る由もないが、青柳先生と私の会話を泉下の加賀教授はどう聴いたであろうかの思いをもったところである。

家人には未だ話していないが、旅立ちの折には、棺(ひつぎ)の中に「中國漢詩選」を忘れないで入れて欲しいものだ

が、彼の地で加賀教授に再会したら説教の折の心境を是非伺ってみたいものだ。夕陽の集いで青柳先生と加賀先生の思い出話ができただことは老残の身に取っては無上の喜びであつたが、半面、加賀教授への供養になったのではとの思いを持たったのは徒(いたずら)に馬齢を重ねることがなせる業(わざ)であろうとも思う。

平成29年度 北海道教育大学夕陽会 本部総会・大懇親会・全国支部長会議のお知らせ

◆日 時 平成29年6月17日(土)

◆会 場 函館国際ホテル

(函館市大手町5番10号 ☎0138-23-5151)

- ・平成29年度 全国支部長会議 13時30分～15時30分
- ・平成29年度 総 会 16時～17時
- ・平成29年度 大 懇 親 会 17時30分～20時

第10回 夕陽美術展のご案内

日 時 平成28年9月16日(金)～20日(火)

会 場 函館市芸術ホールギャラリー

恩師・瀬川先生を訪ねる遠野・花巻の旅

b y 地理研OBの会

参与坂口一弘

(昭和41年卒)



山「北海道新幹線が開業したら、遠野に住む瀬川先生を訪ねよう」：二年前の北海道教育大学函館校創立百周年記念式典参加のために、岩手県遠野市から地理研究室担当教授だった九十一歳になる瀬川秀良先生が単身来函した。その宿に全員六十歳以上の教え子たち二十一名が集まって親交を深めた。その終了時の合言葉が冒頭のフレーズだった。

かくして、その日はやって来た。平成二十八年六月十四日、新函館北斗駅に最年長の旅行団团长川島孝夫氏(前夕陽会会長・昭和三十一年卒)を初め十七名が顔を揃えた。顔ぶれは、近堂俊行氏(昭和三十三年卒)、札幌から参加の中瀬裕義氏(昭和三十四年卒)、帯広から参加の高佐芳宏氏(昭和四十年卒)、以下、函館市と近郊在住の八十三歳から六十四歳までのほぼ前・後期高齢者ばかりである。

この旅行の計画・準備、さらには引率まで一手に引き受けてくれた武田隆雄氏(昭和四十六年卒)のてきぱきとした指示と全員に与えられた役割分担の執行のもと、楽しい一泊二日の旅はスタートした。

セレモニー進行係の筆者の進行でまず結団式。川島団長の挨拶をいたたく。しおり作成係の伊藤曉氏(昭和四十三年卒)から旅のしおりが配付され、ほぼ全員が初めての北海道新幹線に乗り込む。

早速、会計係の中村紀久雄氏(昭和四十四年卒)と横堀博氏(昭和四十五年卒)による会費の徴収。続いて、調達・運営

係の中山修一氏(昭和四十四年卒)と笹本哲雄氏(昭和四十八年卒)から用意してきた飲み物とおつまみセットが配られる。ようやく落ち着いてふと窓を見たらすでに青函トンネルの中だった。スタート時から記録係の福田侑司氏(昭和四十三年卒)と佐藤篤正氏(昭和四十八年卒)はカメラとビデオ撮影にと余念がない。

懐かしいお喋りに興じているうちに二時間で盛岡に到着し、「新幹線は速い」を実感。駅では、昼食・弁当係の長谷恵氏(昭和四十七年卒)と加屋本旬氏(昭和四十九年)が弁当を買い込み、貸切バスに乗り込む。

バスは、瀬川先生の住む遠野市へ直行。先生は退官後、実家の開稱寺(もんしようじ)の住職をされている。先生を訪ねる旅は、メンバーは替わっているがこれで四度目である。門前では九十三歳とは思えないお元氣なお姿で待つておられた。特に五十年以上ぶりの中瀬氏と高佐氏は大感激。

大堂に上がり込み、川島団長の挨拶に続き、土産係の西谷弘氏(昭和四十四年卒)が用意したお土産の進呈、そして、瀬

川先生からのご挨拶とお土産をいただく。昼食後、袈裟を纏った先生の読経に合せて経本を片手に読経もどき。そして浄土真宗についての法話をいただく。

その後、先生も着替えて、一緒に遠野市観光へ。遠野市は言わずと知れた柳田國男の『遠野物語』のもとになった町であり、河童や座敷童子などが登場する「遠野民話」の町である。

「とおの物語の館」では語り部による民話を聞き、「カッパ淵」を眺め、「伝承園」では南部曲り屋の見学、さらに、「遠野物語」の第九十一話に出てくる奇岩「続石」へ。ここは急で長い山坡の上にあり、みんなに花を持たせて？途中リタイアした先生に負けじと全員登り切った。

そして、宿舎となる花巻温泉のホテル花巻へ。佐藤光豊氏(昭和四十二年卒)の進行のもと、近堂氏の挨拶に引き続き高佐氏の乾杯で楽しみな夕食の宴が始まった。学生時代の思い出話や近況交流に花が咲き、あつという間に二時間が過ぎ、部屋を移して二次会へ突入。

二次会は、もっぱら先生の元氣と若さの秘訣が話題だった。『125歳まで生きる方法』という本を片手に、毎日続けている誰も真似ができないような筋トレと脳トレ(勉強)の内容と、凛とした大きな声で語る姿に圧倒されっぱなしだった。七十代以上が先に失礼したのに、先生はさらにお付き合ひ、元氣な六十代グループは午前一時半ごろまで続いたらしい。

二日目は、宮沢賢治一色の花巻市観光。まずは、イギリスのドーバー海峡に似ていると賢治が命名した「イギリス海岸」へ。その後、「雨ニモマケズ」誌碑、「宮沢賢治童話村」「宮沢賢治イートハーブ館」「宮沢賢治記念館」を見学し、「山猫

軒」での昼食。その後、「ワインシャトー大迫」の見学と試飲を楽しみ、JR土沢駅で先生とお別れのセレモニー。

近堂氏の「瀬川先生に教わったお陰で、地理研の一員であることの誇りを持てたこと、このようなすばらしい仲間と楽しい旅ができたこと、先生のお元氣なお姿から私たちも元氣をもらえたことに感謝の念でいっぱいです」との挨拶。先生からは、「このような歳になつて、五十年以上も前に教えたみなさんがこうして訪ねて来て下さったことは教師冥利に尽きる」とのご挨拶をいただき、一人一人と力強い握手を交わして別れを惜しんだ。

ホームで列車を見送り、我々も盛岡駅から北海道新幹線で帰路に就いた。新函館北斗駅では、札幌へまっすぐ帰る中瀬氏の挨拶で解団式を終えた。



前納会費納入会員名簿追加分

遠藤 裕志 札幌 昭53 島 義幸 安平 昭53

(平成二十八年六月二十日現在)

夕陽会員計報

長南 克己氏 昭24
小樽市長橋3の13の19

秋永 栄二氏 昭48
苫小牧市しらかば町6の18の5 眞知子氏

三階 上上氏 昭24
函館市湯川町3の13の18の1106

大井川 健氏 平5
安福島町吉岡3の3 昇氏

酒井 井武美氏 井昭3
函館市深堀町31の28の301

(平成二十八年六月十九日現在)

齊藤 博道氏 昭22

千葉 輝明氏 平13
岩見沢市日の出町102の36

能登 政之氏 昭29

札幌市清田区真栄4の5の13の2 道子氏

村山 俊量氏 昭44

札幌市豊平区西岡2の9の6の16 我妻いずみ氏

成田 満也氏 昭30

函館市富岡町2の11の15 登喜江氏

原 顯彰氏 昭41

函館市美原2の33の10 一彰氏

野村 拓氏 昭34

函館市柏木町4の26 智珠子氏

夕陽会ホームページを
ご利用ください。

夕陽会ホームページより「本部夕陽会報」「函館支部会報」「渡島支部会報」のバックナンバーが閲覧、ダウンロード、プリントアウトできます。ご利用ください。

前納会費制度
ご利用のお勧め

夕陽会本部通常会費の納入には、前納会費制度があります。ご退職された方は是非、この制度をご利用くださるようお勧めいたします。

前納会費納入会員は、会員名簿に納入者の○印を付して終身会員として、次のような特典が受けられます。

①記念品（人民蕃殖の白扇）の贈呈
その他不定期発行の記念品等の贈呈

②夕陽会報（年三回発行）と会員名簿（三年に一度の発行）の本人への贈呈

③前納会員への加入切り替えを会報に通知掲載、その他慶弔規定の適用
前納会費の額は、卒業年次により次の四段階になっております。

- ①大正年代の卒業生 五千元
- ②昭和年代の卒業生のうち昭和五十年までの退職者 一万元
- ③同じく昭和五十一年以降の退職者 二万円
- ④平成元年以降の退職者 三万円

ご希望の方は、本部（附属小学校内財政部担当）へご一報ください。振替用紙を送付いたしますので、簡単に手続きが済みます。

なお、函館市支部と渡島支部でも支部終身会員制度をとり、その推進・拡充を図っております。両支部とも終身会費は一万円であり、それぞれ特典があります。

編集後記

◆会報第二一九号をお届けいたします。今回も、皆様から多くの玉稿や貴重な写真等をお寄せいただきました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

◆今号の巻頭写真は北斗市在住の先輩より提供いただいた北海道新幹線の写真三枚を編集しました。新幹線の開業によって道南も新時代を迎えました。

◆我が夕陽会も、二期八年、函館校の新課程移行への激動期、教職課程存続のために全身全霊で努力され、奔走された橋田会長がご勇退され、新しい会長に藤川隆氏が選任されました。夕陽新時代の始まりです。

◆教職会員が予想以上の勢いで減少していますが、教職外の会員増を目指し、新たな発想で、現職だけでなくOBも巻き込みながら、今後ますます団結を強めていくことができると考えています。

(情宣部長 古川 邦彦 記 昭56卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041 0806 函館市美原3丁目48番6号

北海道教育大学附属函館小学校内

夕陽会本部事務局

電話番号 (0138) 46-2235

夕陽会専用 (0138) 34-5520

FAX番号 (0138) 47-7376

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鶴亭)氏(昭4卒)